南ア月報

（2011 年 4 月）

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●州政府への交付金　国庫へ回収される

７日、ゴーダン財務大臣は２０１０年から１１年会計年度に交付されたインフラ整備交付金２５億ランドを８つの州から回収することを発表した。これは、各州政府が交付金を使い切れなかったためで、交付金総額の１１３億ランドのうち２２％が未支出のまま。自由州、北ケープ州、ムプマランガ州では交付金の４５％以上が使い切れなかった。唯一交付金全額を使い切ったのは野党民主同盟（ＤＡ）統治下にある西ケープ州のみであった。

●ヨハネスブルグ清掃業者のスト

７日、腐敗した幹部の解雇と賃金の公平な配分を求め、ヨハネスブルグ市の清掃業務を引き受ける Pikitup 社で働く職員がストライキに突入した。ストライキをサポートする南ア行政職員連合 SAMWU は雇用者側からの理解が求められない限りストを続行すると宣言。これを受け、幹部が辞職を表明し、２１日、ストは収束した。ストは３週間続き、ヨハネスブルグ市では回収されないゴミが溢れかえる事態となった。

●シセカ協調統治・伝統業務大臣の不正支出疑惑

１０日、週末紙サンデータイムズ紙は、シセカ協調統治・伝統業務大臣が、０４年に大臣職に就いて以来、公金の私的流用を繰り返していると大きく報道した。同紙によると、シセカ大臣は税金を使ってスイスの刑務所に収容されている元恋人に会いに行ったり、家族と高級ホテルに滞在したりしていた。ズマ大統領は，報道が真実と判明すれば、同大臣に対し何らかの処置をとる必要があるとしたが、まだ処置は下っていない。

●ズマ大統領追放陰謀説

１０日、サンデー・インディペンデント紙は、ツェレ警察大臣を調査した２２ページにわたる書類の中に、ズマ大統領追放を企むトップ政治家の名前が掲載されていると報じた。書類には陰謀を企む人物としてセクワレ住宅大臣、ムキゼ・クワズールナタール州首相、マレマＡＮＣ青年同盟総裁、ラデベ法務大臣、ポーザＡＮＣ財務部長等多数の政府要人の名前が挙がっている。真偽の程は定かではないが、２０１２年のＡＮＣ総裁選を控え、総裁の座をめぐり様々な駆け引きが開始されたと見られている。

●マレマ青年同盟総裁のヘイト・スピーチ裁判

“ボーア人を撃て”という歌詞が入ったアパルトヘイト時代の解放闘争歌を歌い、アフリカーナー（ボーア人とも呼ばれるオランダ系白人）を罵るようなヘイト・スピーチを公共の場で行い、アフリカーナー住民の生活を脅しているとし、市民組織アフリ・フォーラムと南ア・トランスヴァール農業組合が、裁判所に訴え出た。裁判初日の１１日、マレマ氏は機関銃を携えた複数のボディガードを引き連れ裁判所に現れた。裁判所では一貫した政治的レトリックで弁護士からの質疑をかわして自らの正当性を主張。裁判は未だ続行中。

●行政サービス抗議活動で警官の暴行により一人死亡

１３日、自由州のフィクスバーグで、行政サービスの改善を求める抗議活動に参加したコミュニティ・リーダーのアンドリース・タタネ氏が、警官からの暴行を受けた上，ゴム弾を胸に打たれ死亡する事件が起こった。報道では，タタネ氏が暴行を受け、死に至る映像が生々しく映し出され，警察のやり方はアパルトヘイト時代を彷彿させるものだとして大きく批判の声があがった。

●ＣＯＰＥメンバー、ＡＮＣへ移籍

１３日、野党国民議会（ＣＯＰＥ）の党員数名がＡＮＣへと移籍することが発表された。離党メンバーは、ＣＯＰＥ北ケープ州リーダーのネベリ・モンパティ氏、ＣＯＰＥ報道官ＪＪタバネ氏、そして元ＣＯＰＥ議会リーダーのダンダラ氏の息子であるシュロマ・ダンダラ氏等。元ＣＯＰＥメンバーのＡＮＣ入りは，ＡＮＣの選挙キャンペーンにそれ程大きなインパクトは与えないとされているが、ＣＯＰＥにとっては痛手となった。

●各党地方選挙キャンペーン開始

４月は各党で地方選挙のキャンペーンが開始され、各党党首が各地をまわり支持を訴えた。野党第１党ＤＡは快調なスタートを切ったが、与党ＡＮＣは内部の派閥争いや３者同盟間の意見の食い違い、立候補者リストをめぐる抗議活動等がおこり、キャンペーンに一歩出遅れた格好となった。

今回の選挙では５３７９３人の立候補者が、４２７７の小行政区（Ward）で、全部で１００５５の議席をめぐって選挙戦を行う。今回の地方選挙では、５月１８日の選挙当日に投票することができない登録有権者が，２日前の１６日に投票できることとなった。また、障害がある等何らかの理由で投票所に足を運ぶことができない有権者のために、選挙委員会が１６日、１７日の２日間、各自宅を回って投票を受け付ける。

2. 外政関連

●コートジボワール情勢に対する南アの反応

５日，マシャバネ国際関係・協力大臣は，フランス軍によるコートジボワール空爆を非難した。同日，バグボ前大統領側からの停戦要求が発表され，同省はこれを歓迎する声明を発表した。

南ア政府は，当初バグボ前大統領とウワタラ大統領の一方だけを責めるべきではないとして，双方を仲介し包括的な政権の樹立を促すことを目指していたが，その後大統領選挙での敗北を受け入れるようバグボ前大統領に求める立場へと変化した。

●リビア情勢に対する南アの対応

５日，マシャバネ国際関係・協力大臣は，リビアに関するＡＵハイレベル・パネルがリビア入りして政治的解決を追求できるよう，ＮＡＴＯは空爆を停止すべきであると発言した。

９日，ズマ大統領は，リビアに関するＡＵ安保理アドホック委員会の一員として，モーリタニアを訪問し，同委員会として協議を行った。そのままリビアに移動し，１０日から１１日にかけてリビアに滞在，ＡＵの和平ロードマップを受け入れるようカダフィ指導者への働きかけを行った。１１日，ＢＲＩＣＳ首脳会合出席のため他の委員会メンバーより一足先にリビアを発ち南アに帰着したズマ大統領は，記者に対し，カダフィ指導者がＡＵロードマップを受け入れ停戦に応じたと述べた。一方，残りの委員会メンバーは反政府側

にロードマップの受け入れを拒否され，政府軍も戦闘を継続した。
　その後も，南ア政府は，カダフィ・リビア指導者の家族や側近を対象にした空爆は，国連安保理決議１９７３のマンデートを超えているとして，平和的解決を訴える立場を度々表明した。

●南ア，ＢＲＩＣＳ首脳会合初参加
　１３日，ズマ大統領は南アを出発し，１４－１５日に中国・海南島の三亜で開催されたＢＲＩＣＳ首脳会合に参加した。今次会合は，ＢＲＩＣに南アが参加して以来，初の首脳会合となる。ズマ大統領には、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、パテル経済開発大臣及びデービス貿易産業大臣が同行した。
　１４日に発表された，三亜宣言では，ＮＥＰＡＤの枠組みにおけるアフリカにおけるインフラ開発および工業化が盛り込まれ，アフリカの窓口としての南アの存在感が示されるとともに，安保理改革の必要性を確認する文言も含まれた。
　ズマ大統領は，１５日，ボアオ・アジア・フォーラムの開会式で基調演説を行い，１６日に南アに帰着した。
　なお，これに先立つ４日，ヨハネスブルグでＢＲＩＣ諸国外交団より出席者を得てセミナーが開催され，同諸国は南アのＢＲＩＣ加盟の意義について述べた。

3. 経済関連

●物価上昇
　南ア統計局によると、消費者物価指数（CPI）は 3 月に前年比 4. 1%上昇した一方で、生産者物価指数（PPI）は同 7. 7%上昇した。ガロー・ブレイト・エコノミストは、一次産品の価格上昇は、生産者物価の上昇をあおることとなり、年末に向けて物価上昇が進行することを見込んでおり、コーサ・ネドバンク・エコノミストは、物価上昇は主に外部要因に影響されるので、金利引き上げは物価上昇抑制に効果をもたらさないであろう、と発言した。電気や燃料費用の上昇が、物価上昇に著しい影響を及ぼしている。

●信用拡大
　南ア準備銀行の推計によると、民間部門における信用の伸びは、3 月の前年比で 5. 1%と、2 月の前年比 5. 4%から減少したほか、5. 9%に拡大するとの期待値を大幅に下回った。5. 1%の主な拡大要因は家計であり、企業は、経済回復の不確実性、電力及び交通の規制を懸念し、借入拡大に慎重となっている。

●自動車輸出
　南ア自動車製造業協会（NAMSA）の発表によると、3 月の自動車輸出は記録的な 29 万 254 台、前年比 37. 4%の増加となった。トヨタ南アフリカの輸出は前年比で 80. 1%の伸びで、フォルクスワーゲン南アフリカも好調な成績を報告した。輸出先の経済が回復し始めているため、自動車産業は今年の見通しに積極的な姿勢を見せている。NAMSA は、今年、記録的な 30 万 1, 000 台の輸出を見込んでいる。
　また、NAMSA によると、3 月の自動車国内販売は、前年比 22. 8%、5 万 3, 478 台の拡大となった。アナリストは、物価上昇、金利上昇の見込み、管理価格の上昇は、こうした成長を鈍化させると分析する。３月の販売台数が最も多かったのはトヨタとフォルクスワーゲンで、日産南アフリカは、今年の国内自動車販売台数の 13～15%の成長を見込んでいる。

●外貨準備高

グロスの金・外貨準備高は、3 月に 4. 1%、492 億 7, 000 万ランドに増加した。同増加は、主に 7 億 5, 000 万ドルの国債のデポジットによるが、財務省を代表する約 10 億ドルの外貨買いオペレーションも重要な役割をになった。これらの買いオペレーションにかかわらず、3 月末のランドは、対ドルで 6. 6 ランドとなった。

●鉱物関連

4 月の記者会見で、デービス貿易・産業大臣は、南アは国内の選鉱に対する中国からの投資を期待していると発言した。デービス貿易・産業大臣は、中国における BRICS 会合から帰国し、こうした投資は BRICS 加入の恩恵である、と述べた。南アは、西ケープ州のサルダナ湾に 150 億ランドの希少鉱物の選鉱コンプレックスを設立する計画。

また、鉱物資源省は、南アに帰属する採掘権の入札を実現するため、6 月までに入札システムを整備する見通し。新制度は、これまでに、無効にされた採掘権、失効した採掘権、没収または放棄された採掘権のみが対象となる。

ズマ大統領は、インドとの将来的に良好な関係を予想しているが、同国との関係は、南ア国内の物価上昇と電力危機を招くおそれもある。インドによる石炭購入は、Eskom が発電に使用している質の低い石炭を使い果たし始めている。ヴァン・デ・ワール・エネルギー・アナリストは、政府は、単に石炭鉱山グループだけではなく、国家のより大きな利益のために、介入する責任がある、とコメントした。

●BEE 法改正案

BEE 法改正案は、公平な取引から企業開発にまで焦点が移っていることに鑑み、7 月までに国会に提出される予定。同法改正は、白人ビジネスマンが、政府事業を獲得するために表向きに黒人を使っているという事情、及び、BEE は一部のエリートのみに利益をもたらし、起業家ではなく黒人株主階層を創り上げているとの鋭い批判に注目を集める意図がある。

4. 広報・文化

●ケープタウンの和太鼓団体「魂太鼓」による被災地支援チャリティー・イベント

１５日、ケープタウン近郊のクロイドン・オリーブ・エステート（ワイナリー）において、和太鼓団体「魂太鼓」主催のチャリティー・イベントが開かれた。魂太鼓は南アフリカにおいて和太鼓の普及に努めている団体（代表はアシュラ・コエネン氏）。チャリティー・イベント当日は、地元ＦＭラジオ局のパーソナリティが司会を務め、ケープタウン駐在官事務所職員を含む在留邦人・他国外交団等の参加のもと、魂太鼓の演奏や加藤登紀子氏とも共演の経験もあるマソンド氏等によるジャズ演奏が行われた。チャリティー・イベントの収益金は、日本赤十字社に寄付される。

●南アフリカの子ども達からの励ましの手紙、被災地の子供達へ

１８日、仙台市太白区の生出中学校学校に勤務する南ア人ＡＬＴ（英語補助講師）のキマシュニー・プーンサミーさんが、南アフリカの子供達が被災地の子ども達のために書いた励ましの手紙約３００通を日本に持ち帰った。プーンサミーさんは震災後、避難所生活を経験し、春休みを利用して南アフリカに一時帰国していた。手紙を書いたのはヨハネスブルグ、プレトリア、グラハムズタウン及びクイーンズタウンなどの小中学校の生徒たち。「遠く離れていても応援している」、「日本は必ず立ち直ると信じています」等の励ましのメッセージが書かれた手紙は、生出中学校の子ども達に手渡された。仙台市には１０名の

南ア人ＡＬＴが勤務しており、励ましの手紙はそれぞれが勤務する学校で日本の子ども達に紹介される。４月３０日付読売新聞及び朝日新聞にて本件が報道された。

●パインランド初等学校での被災地支援チャリティー・コンサート

２０日、ケープタウン・パインランド初等学校において、同行生徒及び南ア人歌手ヴィッキー・サンプソン氏によるチャリティー・コンサートが開催された。生徒達が作った折り鶴や手作りの日本及び南ア国旗が装飾された会場には同校生徒１１０名、ケープタウン駐在官事務所職員、南ア一般国民ら約３５０名が参加した。同校生徒等による弔意メッセージの朗読及びインターネットから動画をダウンロードし日本語の歌詞を覚えた「さくら」の合唱の後、マンデラ元大統領の前で歌を披露した経験のあるサンプソン女史からも、今回の災害で被災した方への弔意が述べられ、同女史の代表曲である"African Dream"が力強く披露された。

５．警備・治安

●ATM 爆破事件の増加

最近、ヨハネスブルグ及びプレトリア近郊で ATM 爆破事件が相次いで発生している。１月にはセンチュリオンにおいて、銃で武装した犯人らが２台の ATM を爆破し逃走、２月には、テンビサ付近において自動小銃で武装した犯人らが ATM を爆破し逃走した。３月にはプレトリア市内東部で発生し、犯人グループと警察官が銃撃戦となり警察官が射殺された。４月にもプレトリア市の南に位置するミッドランドのガソリンスタンドでＡＴＭ爆破事件が発生し、臨場した警察官１名が犯人に射殺されている。

犯人らは犯行完遂のためなら人命を奪うこともためらわない輩であり、たまたま現場付近に居合わせた方が流れ弾の被害を受けたとの報道もされている。よって、ATM を使用する際には、付近の不審な車（者）の確認を行い、なるべく人気のない ATM の使用を避ける等、爆破事件の巻き添えとならないよう留意が必要である。